技術 – それによって期待が持てます

取扱説明書

B0507 号

日本語版

番号 111917

Champion C 2200

耕作 – ユニバーサル –
フィールドチョッパー

C2200

Maschinenfabrik KEMPER GmbH & Co. KG • D- 48694 Stadtlohn

郵便番号 1352 • 電話: +49 (0) 25 63 / 88-0

電子メール: Info@Kemper-Stadtlohn.de

Iインターネット: www.kemper-stadtlohn.de

目次C2200

取扱説明書 B 9909 D 号
番号 79382

章

1.0 取扱説明書 序文 製造物責任
2.0 事故防止規則
2.1 安全 – 指示
3.0 技術説明
4.0 技術指示
5.1 基本設定
キャリアカーに配置
3点油圧
油圧接続
電気接続
支持ホイールの調整
バランスを保った配置
排出マニホールドの回転速度
排出マニホールドの移送位置
5.2 カルダンシャフトを取り付ける
5.3 トウモロコシのための準備
アタッチメントを取り付ける
移送保護を取り除く
切断長さを調整する
ドラムの引き込み速度
横たわったトウモロコシの収集器を停止する
車道走行保護
操作指示
5.4 牧草収穫の準備
ピックアップを取り付ける
ナイフの取り外し
牧草収穫についての特別指示
ピックアップ アタッチメントの速度
5.5 WCS（ホールクロップサイレージ）収穫
WCSの説明書と手順
5.6 ナイフを研ぐ
研磨装置の操作
シャベル
カウンターナイフの点検
5.7 磨り潰しプレート
磨り潰しプレートの取外し
磨り潰しプレートを調整する
下部の磨り潰しプレートの交換
磨り潰しプレートを回す
5.8 ナイフホイール フラットローラー
プレスチャンネルを取外す
カウンターナイフの点検
カウンターナイフを調整する
フラットローラーのスクレーパの調節
5.9 金属探知機
自動電力潮流中断
取り付け後の調整
5.10 耕作チョッパーで作業する
耕作チョッパーを設定する
引き込みボディの切り替え
遠隔操作
6.0 メンテナンス
技術情報
7.0 メンテナンス – 点検
8.0 故障発生時の対応
9.0 電気回路図 耕作チョッパー、遠隔操作、金属探知機

10.0 付録

製造物責任

お客様各位

この度は KEMPERS をお選びいただき誠にありがとうございました。弊社はお客様のパートナーとして、信頼性の高いサービスと組み合わせて品質と効率を提供します。

弊社の農業機械の使用条件の見積りや新しいデバイスの開発にこれらの要求を考慮するために、いくつかの情報をお願いいたします。

お客様に新たな展開についてご連絡することも可能になります。

通知義務

製造物責任には、機器の販売においてメーカーおよび販売業者に取扱説明書を受け渡し、顧客に機械の操作、安全およびメンテナンスの規則を指示することが含まれています。

各取扱説明書には以下の見本にある複数のフォーム (A、B、C および D) が添えてあります。機械および取扱説明書が適切に配信されていることを証明するためには、確認が必要です。

このために、文書 A に署名し、Kemper 社に送信します。文書 B は、機械を提供した会社に保存されます。文書 D は、顧客が保存します。

取扱説明書の引継ぎ

顧客が後に機械を他へ引き渡す場合も取扱説明書を共に渡す必要があります。

Kemper Übergabeerklärung für Landmaschine A

(1) Typ Maschinen-Nr.

(4) Tag der Übergabe GP-Nr. des Vertragshändlers, Importeurs

(2) Anschrift des Kunden

(5) Anschrift des Vertragshändlers/ Importeurs

Firmenstempel/Unterschrift

(3) Die unter (1) angeführte Maschine wurde von mir erworben

Mit der Übergabe der Maschine wurde mir die Betriebsanleitung überreicht, außerdem wurde mir die Bedienung, die Sicherheits- und Wartungsvorschriften erläutert.

Unterschrift des Kunden Datum

Dieses Original der Erklärung ist an den Hersteller einzusenden

Firmenstempel/Unterschrift, falls mit (5) nicht identisch

(6) Die Maschine wurde gemäß Hersteller-richtlinien dem Kunden übergeben.

Unterschrift des KD-Fachmannes Datum

Maschinenfabrik KEMPER GmbH • Postfach 1352 • 48694 Stadtlohn

適合宣言

Kemper GmbH & Co. KG
Am Breul
D-48703 Stadtlohn

耕作 – フィールドチョッパー

タイプ：

C2200

EU 規定に基づく：

2006/42/EG.....機械指令

DIN EN ISO 12100.....機械 - 安全性

および DIN EN632.....フィールドチョッパー - 安全性

Stadtlohn、2007 年 11 月 6 日

フィールドチョッパーC1200 を当社の同意なしに改造
または変更した場合は適合宣言の有効性を失います。

代表取締役

DD: 18.10.16
AN: Th.G.

事故防止規則

1. 作物の入り口領域の立ち入りは禁止されています。
2. グラインダーの操作は、側面から、または閉じているナイフホイールボックスでのみ可能です。眼の保護具を着用します。
3. 作物を手で採り入れたり、足で寄せたりしないでください。
4. チョッパーで作業する場合は、PTO チェンジレバー 「オフ」にし、トラクターのエンジンを切ります。

危険：　収集ドラムの停止後は回転ブレードが作動します！

5. 車道を走る場合は、保護プレートをシートリフターのトップに取り付ける必要があります。
6. 機械の運転中は、ナイフホイールボックスを開けてはいけません。

注意：　機械が運転中です！

7. ナイフが正しく設置されているか確認する。
8. カルダンシャフト カップリングを慎重に接続します。
9. カルダンシャフト保護を常に正常な状態に維持し、保護パイプは回転に対して固定している必要があります。
10. カルダンシャフト保護コーンのリブの数を変更することはできません。
11. 機械での作業の際は、十分にサポートする必要があります。
12. 公道では、マニホールドの末端がトラクターやトラクターの付属装置の横や後ろにならないように排出マニホールドを回します。
13. 道路交通法規の照明規定を遵守する必要があります。
14. ナイフホイールが作動している間は排出マニホールドの旋回範囲の立ち入りは禁止となります。
15. 補助装置は平面でのみ宙に浮かせることができます。
16. 油圧ラインを取り外す前に装置を減圧します。加圧された作動油による怪我の場合は、直ちに医者の診察を受けてください。
17. 防護メガネを着用します。
18. 異物の検出前：すべての駆動を遮断、エンジンの停止、およびすべての部品を停止させます。
19. 機械の高さは、高電圧線の接触を避けるために、4 m30cm を超えてはなりません。
20. トレーラーカップリングは、垂直荷重のために許可されていません。
21. 機械のすべてのコントロールはトラクター席の横のフェンダーに直接取り付けなければなりません。
22. 必要に応じて、トラクターの操縦性を許容される軸荷重に従った上で、カウンターウェイトによって再び作りだす必要があります。
23. 機械の旋回範囲の立ち入りは禁止されています。旋回が遂行される前に、機械が水平であるかどうか確認します。そうでない場合は、旋回操作のロックを解除すると、自重によって自動的に水平になります。
斜面での旋回には特に注意してください。
24. 道路では収穫アタッチメントの予期しない下降に対して機械的なロックレバーで固定する必要があります。同様に、排出マニホールドが下降位置にあり、そこで固定している必要があります。他の道路利用者への危険が及ばないように、排出マニホールドをトラクターの方向またはトラクターの上に回します。
25. 油圧システムは高圧で動作しています。多孔、脆性および損傷のあるホースは直ちにすべて交換します。通常はすべてのホースやラインは 6 年以内に交換します。
26. 最大許容油圧は 210 バールです。
27. KEMPER のオリジナルパーツのみ使用できます。

DD: 11.7.14
AN: Th.G.

組み合わさったトランスミッションと反転装置

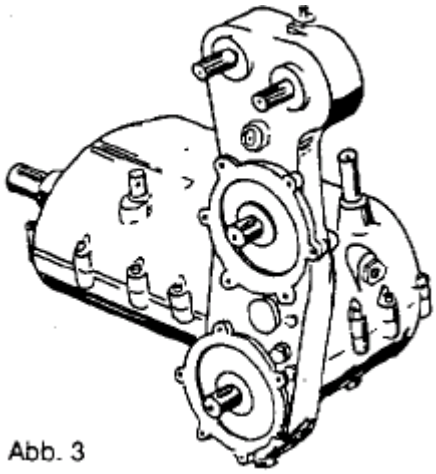


Abb. 3

収集ドラムのフォワード、リバースおよびニュートラルポジションをトラクター座席の反転装置から切り替えることができます。それ以外にも、トランスミッションで4タイプの切断長さを調整することができます。

ドライブの損傷を防ぐために:
負荷時に切り替えないでください！

チョッパーの過負荷保護

Championには4タイプの過負荷保護が取り付けられています:

1. 収集ドラムのドライブのラジアルピンクラッチ。
2. 収集ドラムのドライブカルダンシャフトのスリップクラッチ。
3. 上部プレ圧縮ローラーのドライブカルダンシャフトのラジアルピンクラッチ。
4. 下部フィードローラーのドライブカルダンシャフトのラジアルピンクラッチ。

高さ調節可能のランナー

A 石の地面では、カウンターナイフが石に当たらないように、芝刈り機の地上高を上げる必要があります。

B 外部シートリフターのランナーは高さ調節が可能です。

出荷後の排出マニホールド

新しく出荷された機械は、排出フラップのサーボモーターを
取り付ける必要があります。

放出パイプから割ピンを外します。調整レールのネジを緩めます。モーターをスタッドに差し込み、ストレージに取り付け固定します。

サーボモーターからのケーブルは、ケーブルガイドを介して配置される必要があります。

排出マニホールドが移動する際に、ケーブルを回避できるようにします。
ケーブルは**余裕を持たせて**取り付け、大きな輪にします。

Hinweise zum Auswurfkrümmer

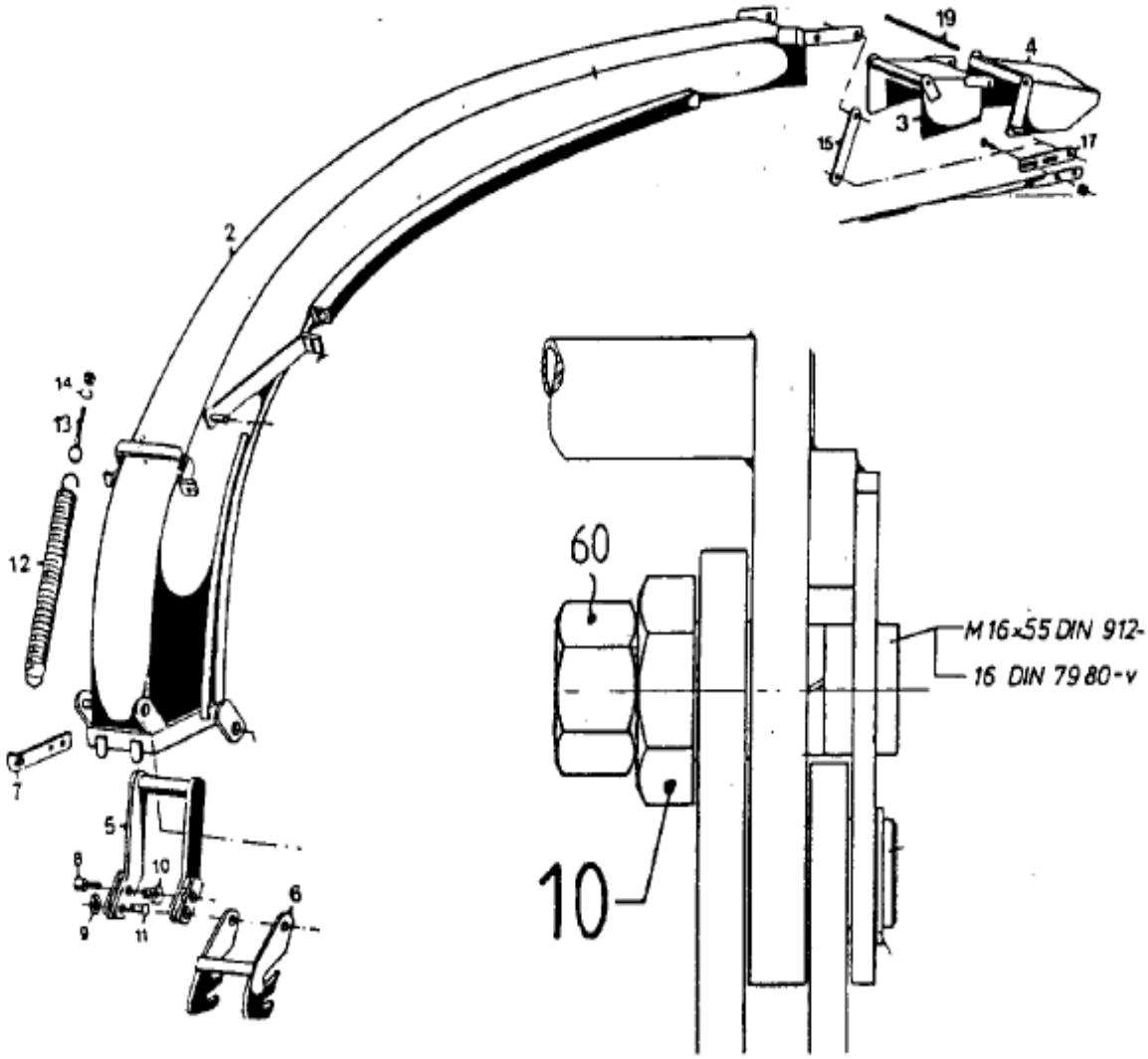


Abb. 86

Das Festklemmen des oberen Auswurfkrümmers auf den unteren Stutzen erfolgt über die Teile 5 und 6.

Gerade in den ersten Einsatztagen tritt hier ein gewisser Anpassungsverschleiß auf. Dieser Verschleiß muß, besonders im Anfang, regelmäßig über den Exzenter 10 beseitigt werden.

CHAMPION 2200 は基本装置（フィールドチョッパー + 回転式収穫装置）として常に同じように組み立てられています。
すべての機械は、2つのナイフホイール回転数のためのアタッチメントドライブを装備しています。

- **フロント**: 3つのスパーギア付きの転移ドライブ。図 3 F（半時計回りのフリーホイール付きのドライブカルダンシャフト）を参照

ナイフホイールの回転数： **トウモロコシ 1160**
牧草 860

- **リア**: 反転−転移ドライブ 3つのスパーギア付き。図 3 H（時計回りのフリーホイール付きのドライブカルダンシャフト）を参照

ナイフホイールの回転数： **トウモロコシ 1064**
牧草 916

各ドライブには、オイルレベルプラグの横に M または G のマークが記されています。図 82 と 83 を参照。
適切な取り付けが制御を簡単にします。

トウモロコシの場合：

ドライブの取り付け位置 図 82 と 84 を参照

牧草の場合：

ドライブの取り付け位置 図 83 と 85 を参照
ドライブの組み替え（図 82/84 と図 83/85）
ナイフホイールへの別の速度数は、ドライブの回転およびカルダンシャフトとナイフホイールシャフトの駆動シャフトを交換することによって達成されます。

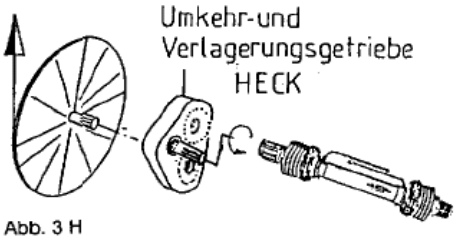


Abb. 3 H

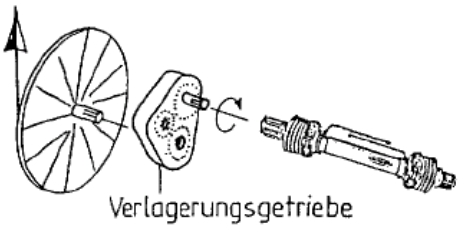


Abb. 3 F

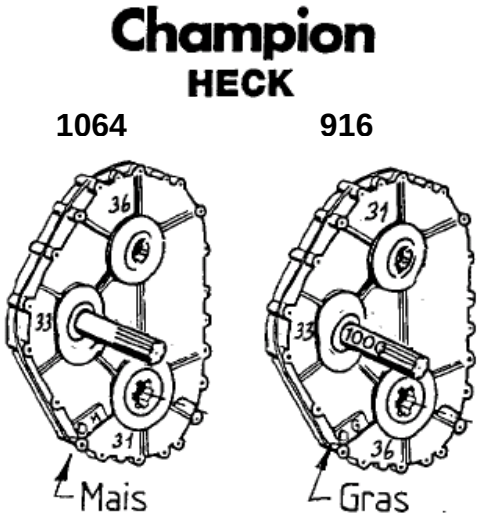


Abb. 82 Abb. 83

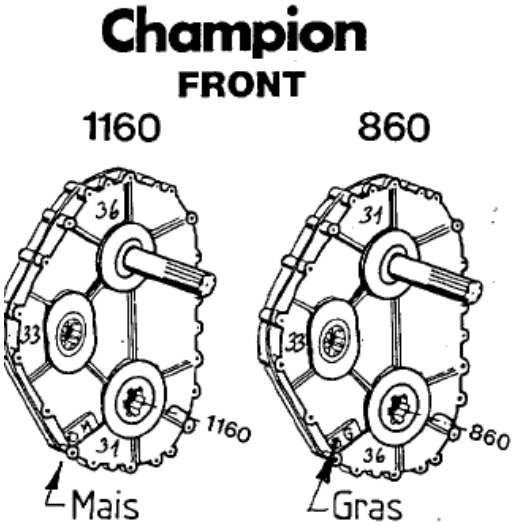
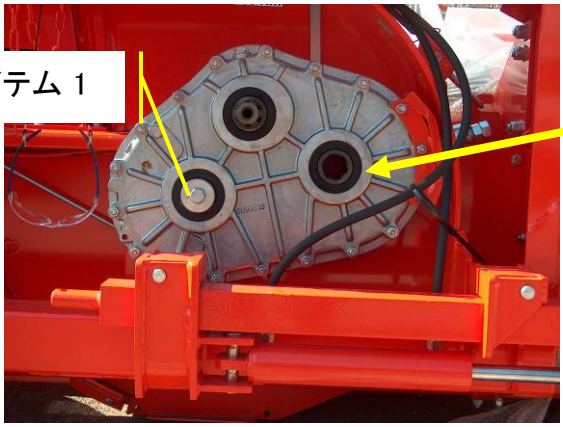


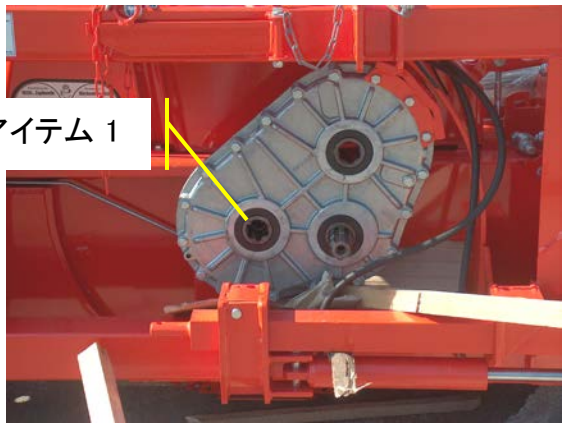
Abb. 84 Abb. 85

反転-転移ドライブ　オイル漏れ　C2200



本来のドライブ位置
マークされた位置でオイル漏れが発生。

180°　回転することにより解決



両方の図は共にアイテム 1です。

ナイフホイールシャフトのボルトを取り外します。
PTO保護（取り付けられている場合）を取り除きます。円錐状の保護を外します。
ドライブをナイフホイールシャフトから引き抜き、180°　回します。駆動スタブを交換します。
保持リングを取り外します。スタブを引き出して後ろから取り付け、シャフトを固定します。
PTO保護のボルトは接続する必要があります（取り付けられている場合 ）。
それにより伸ばした際に壁にぶつかることがありません。

重要 !!!
ギアのペアを取り違えないでください。

組立ては逆の手順で行ってください。

トラクターに配置　　横調節可能の3点支持装置

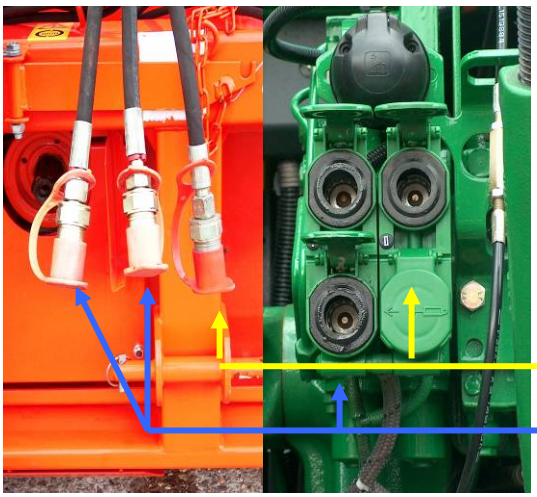
下部リンクと上部リンクの両方を耕作チョッパーの3点支持装置に接続します。
配置後に下部リンクが横動きに対してブロックされていることを確認してください。
トラクターの油圧システムの位置制御を設定します。
1000 回転 PTO を選択します。

3点支持装置は、チョッパーが機械的または油圧で両側を各 110 mm シフトすることができるように組み立てられています。
これは、フィールドを列から列へ 折り返し過程で収穫する場合に大きな利点になります。
油圧での横シフトには、追加の複動式制御バルブが必要となります。

3点支持装置は、横方向対応に2種類の方法があります:

- スピンドルによる機械的調整
- 油圧シフト

油圧接続の設定



横シフトは、トラクターのタイヤの幅にチョッパーを対応させることができます。

これには、複動式 DW と単式 EW 装備の2台の油圧制御装置が少なくとも必要です。
接続はクラッチから汚れを取ってから行ってください。

EW = シリンダー

DW = タワー調整

5.0 耕作チョッパーの基本設定 C2200

電源

12 V の直流電圧が必要です。
バッテリー +
赤のケーブルで接続してください。
バッテリー +
青のケーブルで接続してください。

コンセントをトラクターのリアフェンダーに固定してください。

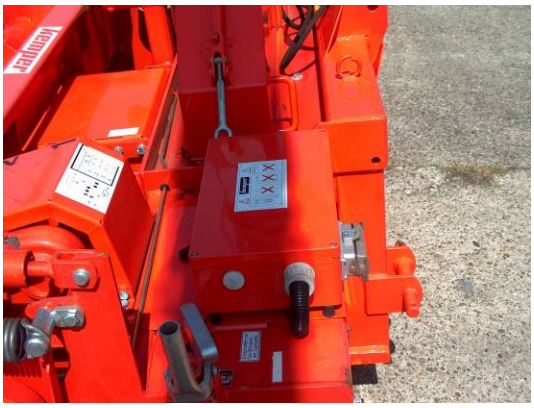
支持ホイール

耕作チョッパーの高さは、両方の支持ホイールで個別に調整することができます。

1. 地盤が平らでない場合、ホイールはチョッパーをサポートし、アタッチメントを保護します。
2. 配置のために、カプラーの高さを変えることができます。

切断ボックスと水平地盤間の高さは約 5 cm にしてください。

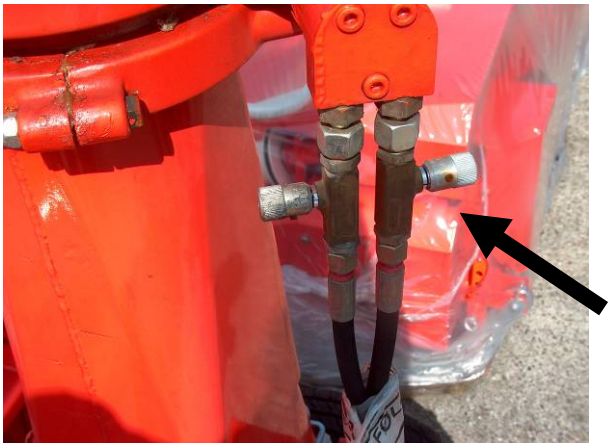
バランスを保った配置



チョッパーは、トラクターにまっすぐ設置する必要があります。

上部リンクは、配置フレームがトラクターと平行になるように設定されています。

排出マニホールドの回転速度を変更する



排出マニホールドの回転速度は、両方のスロットルチェックバルブでお互いに依存しないで調節することができます。
スロットルの回転により回転動作が遅くなります。

タワーの移送位置

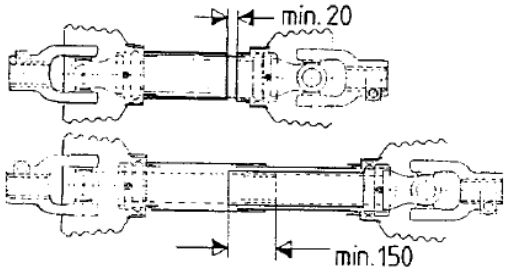
公道で運転するときは交通規制に従って、高さが 4 m を超えないようにするために、排出マニホールドを低くする必要があります。
ロックプレートを緩め、ロックレバーを引きます。チャンネルのスペーサーを開き、テンションレバーのノッチをロックし、ロックレバーを引っ張ります。

スプリングは、排出マニホールドの引き上げや引き下ろしに役立ちます。スプリングにバイアスがかかればかかるほど、引き上げ/引き下ろしが簡単になります。

カルダンシャフトの調整

注意: フリーホイールクラッチは常にチョッパー側に取り付けます。

カルダンシャフトの長さは、それぞれの機器で調整します。両カルダンシャフト半分の適切なオーバーラップは最小で150 mmです



Champion チョッパーは 標準で1000回転 PTO で駆動してください。

メインドライブ

車両にカルダンシャフトを取り付けるためには、カルダンシャフト保護を取り外す必要があります。小ネジを外します。

フィルターを押さえ、保護パイプを回します。保護ロックを解除する必要があります。

保護パイプを引き抜きます。

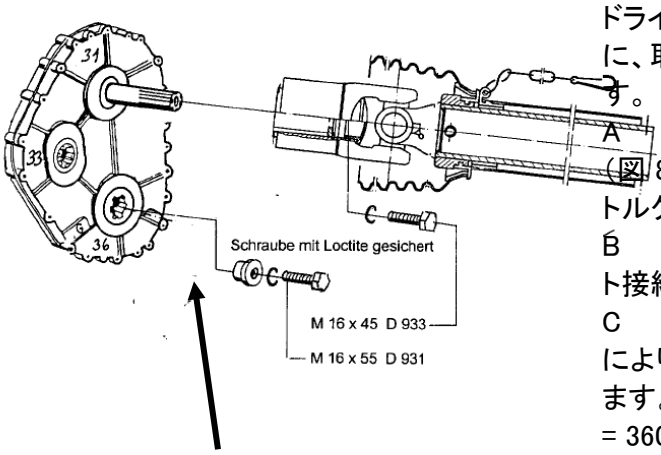
フリーホイールクラッチは16X45 8.8
のボルトで固定します。ボルトの
保護は、締付けトルクに従ってロックタ
イトを使用して行ってください。

フライホイールを駆動シャフトに停止す
るまで押し込みます。駆動シャフトの
ネジ山を清掃してボルトを固定します。

ロックボルトをユニバーサルジョイントを
介して取り付けます。

ボルト M 16X45 8.8 からグリースと
汚れを取り除きます。次に、ボルトの
ネジ山に ロックタイト 234 (ボルト高
強度ロック) を使用します。

190 Nm の締付けトルクでボルトを固定します。次にカルダンシャフト保護を逆の手順で取り付けてください。



取り付けの注意:
ドライブの張力を取り付け時に避けるために、取り付け手順を遵守する必要があります。

A　ドライブをナイフホイール n k h (図 80)に取り付けます。M 16 の締付けトルク = 180 Nm

B　ドライブを適切なカルダンシャフト接続位置に動かします。

C　偏心穴スリーブを回転させることにより、テンションなしの固定が可能になります。図 81を参照。M 20 の締付けトルク = 360 Nm.

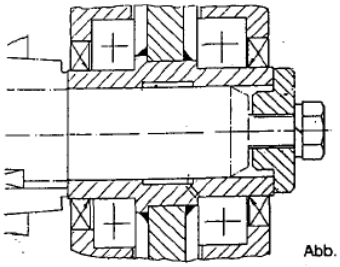


Abb. 80

ドライブをナイフホイールシャフトに差し込み、7 箇所の位置 (各 15″) に動かします。これによって、PTO接続が不利な位置にあっても、作動位置のカルダンシャフト位置がほぼ直線になります。

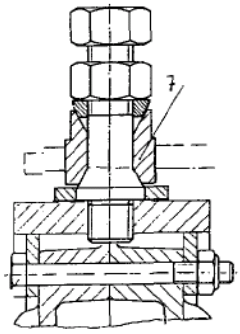
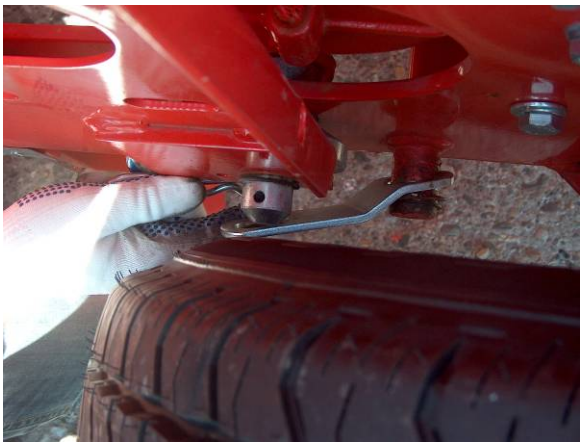
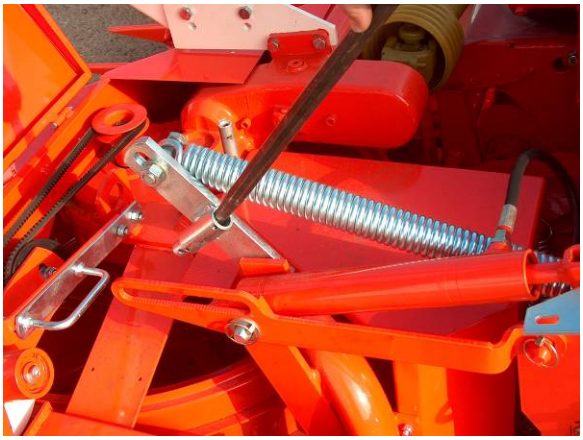


Abb. 81

アタッチメントの取り付け



アタッチメントを引っ込めて、下部固定ストラットを取り付けます。
支持脚を挿入します。



シリンダーを接続し、スプリングをレバーにロックしてから張ります。

移送保護を取り除く

車道を走る場合は、移送保護を取り付ける必要があります。保護を動かすには、輪留めを外し、平鋼をスロットホールに再配置して固定します。

作動中

現在、トウモロコシ収穫アタッチメントはぶら下がって揺れています。配置フレームのスプリングによって、収穫アタッチメントが地面により良く適応できます。
ストロークは枕地の凹凸地面に対して弾力性があります。

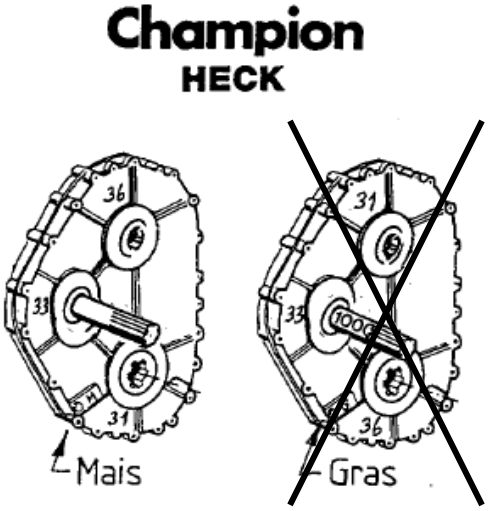


Abb. 82 Abb. 83

バージョン（フロント / リア機械）によって、駆動スタブを交換してください。

1. フロント – リア配置
2. 牧草 – トウモロコシ収穫

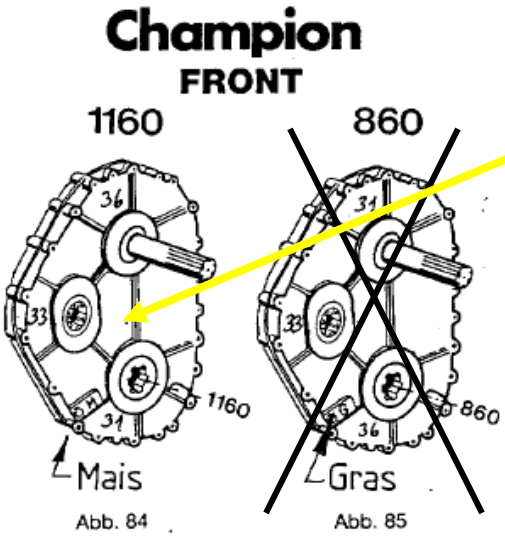
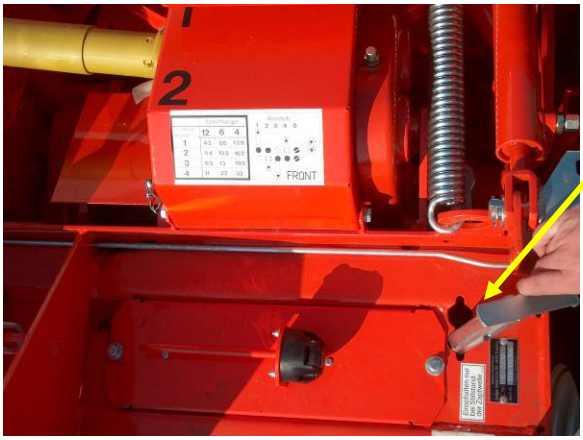


Abb. 84 Abb. 85

トウモロコシ収穫には、スイベルギアの（「M」トウモロコシ）がキャリアカーの方向を向いている必要があります。

カルダンシャフトの取り付けの際は、摩擦クラッチがチョッパーのドライブに取り付けられているか確認してください。

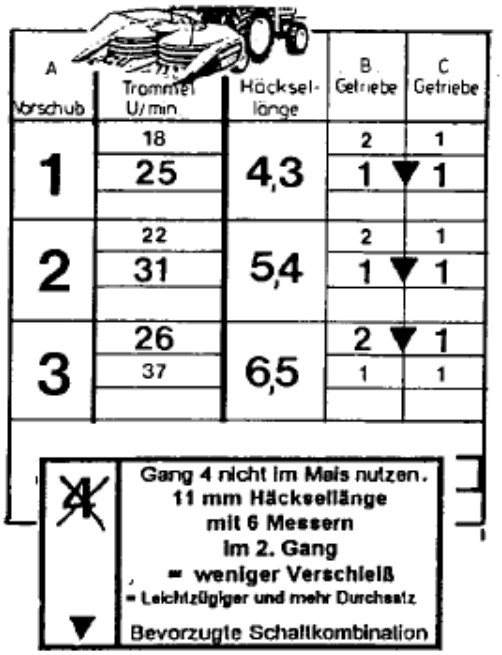
引き込み速度



切断の長さ駆動は、ギアチェンジされる二つのリンクを有しています。シフトレバーは、ギアが0の時にのみセットしてください。

注意!!!

ギアチェンジするには、事前にセットされたギアを0に設定する必要があります。



A Vorschub	Trommel U/min	Häcksel-länge	B Getriebe	C Getriebe
1	18	4,3	2	1
	25		1 ▼	1
2	22	5,4	2	1
	31		1 ▼	1
3	26	6,5	2 ▼	1
	37		1	1

Gang 4 nicht im Mais nutzen.
11 mm Häckselllänge
mit 6 Messern
im 2. Gang
= weniger Verschleiß
= Leichtzügiger und mehr Durchsatz
▼ Bevorzugte Schaltkombination

チョッパー内への作物の均一な供給は、機能とチョッピングに大いに影響します。最適な収集ドラム速度は 20～30 1/min です。表の値を参照。

1 = 高速ドラム駆動
2 = 低速ドラム駆動

4速は使用しないでください。

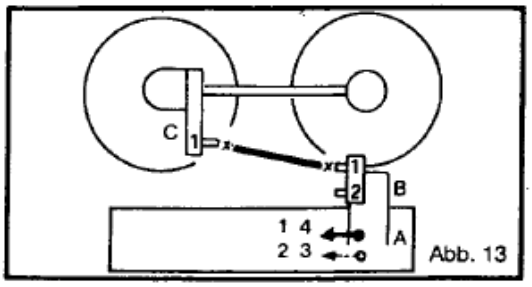


Abb. 13

横たわったトウモロコシの収集器を停止する

横たわったトウモロコシの収集器はオンまたはオフにすることができます。
スイッチをオフにするには、レバーを横に引いて持ち上げます。ベルトはそれによって解放されます。

ベルトを取り外し輪状で置きます。
これは意図しない作動を防ぎます。

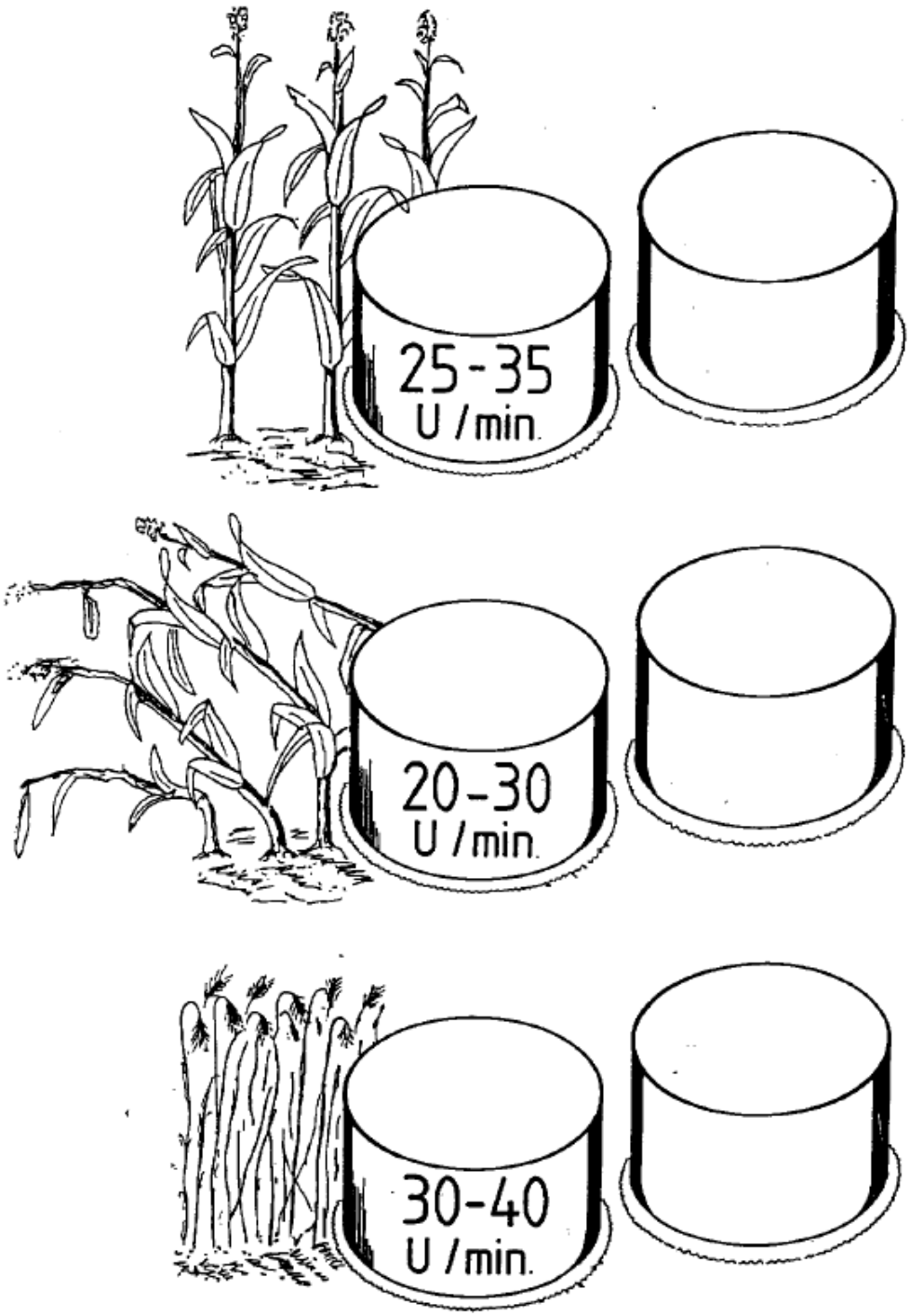
スタッドボルト 10 でベルトテンションを調整することができます。

道路走行保護

道路移送の場合は保護を下げます。

作業位置は保護を上げます。

Einzugstrommel-Geschwindigkeiten



操作指示

横たわったトウモロコシの収穫

自然の影響には計り知れないものがあるため、すべてのアプリケーションに対して有効であると断言することはできません。一般指示:

1. 機械が作物にどのような成果を与えるかを正確に観察することによって、運転手は横たわったトウモロコシを収穫する方法を学びます。
2. フィールドを一周すると、どの方向が最適に機能するかわかります。その場合、列に依存する必要はありません。過酷な条件では、マシンは2方向に機能します。3方向の場合もありますが、4方向はありません。
3. 特定のトウモロコシは前方から作業できますが、他はできません。
4. 横たわったトウモロコシの後ろ側から作業する場合は、特定の割合で長い切り株を残します。
5. ほとんどの場合、横たわっているトウモロコシに向かって作業をするのが最適です。図 34を参照。困難な状況下では方向転換して収穫します(リバーシブルプラウでの作業のように)。
デバイダーで横たわったトウモロコシを持ち上げた時、収集ドラムの前の流れは二方向になります。
ここで推奨できる方法は、機械の切断幅をフルで使用しないでください。指示:
リフターの使用にはメリットがあります。(注文番号 1 セット= 2 個　注文番号)
6. できるだけ低いドラム回転数で、作物の場所を早く走行することが重要です。それによって材料の流れが良好になります。
重要:
手や足ではしないでください!
7. アクセルペダルから足を離して、機械がゆっくり反転することを習得します。その後、フィードは完全に投げ出されることはありません。
ここに、収集ドラムの回転数に関してのいくつかの指示があります:

8. 横たわったトウモロコシの場合は収集ドラムの回転数を可能なかぎり、

26 prm 以下

にします!
この回転数は時計で簡単にカウントすることができます。

引き込みボディの切り替え

切り替えは可能な限り少なく行います。
枕地での草刈り駆動の保護のために、チェーンホイストを備えたシステムとは対照的に収集ドラムの回転数を維持する必要があります。草刈りシステムのフライホイールマスのために可能な限り低い回転数で駆動させるか、またはニュートラルで行ってください!

フル回転でスイッチの切り替え(閉塞による反転)は、回転ブレードがフリーホイールにより回転数を維持しているときのみ可能です。

収集ドラム速度

トウモロコシ、豆またはヒマワリなどの粗茎作物の場合は、下記の範囲内で適切な収集ドラム回転数を選択します:

横たわったトウモロコシ: 25～35 rpm
最適: 20～35 rpm
GPS: 30～40 rpm

材料の流れ-質量

完璧な材料の流れを作るためには、トウモロコシや GPS (ホールクロップサイレージ) の場合では多くの質量が必要とされるため
(短いトウモロコシにも適応)、常に可能な限り早く走行します。トウモロコシが2列または1列の場合は中央で始動するのではなく、収集ドラムで収穫します。

短いトウモロコシの収穫

短いトウモロコシの収穫では、基本的に早く運転する必要があります。それによって材料の流れが良くなります。

GPS の場合は、最適な切断過程を達成するために薄茎作物の切削速度を上げる必要があり、回転数が高くなっています。より詳細な指示は、個々の項目に記載されています。

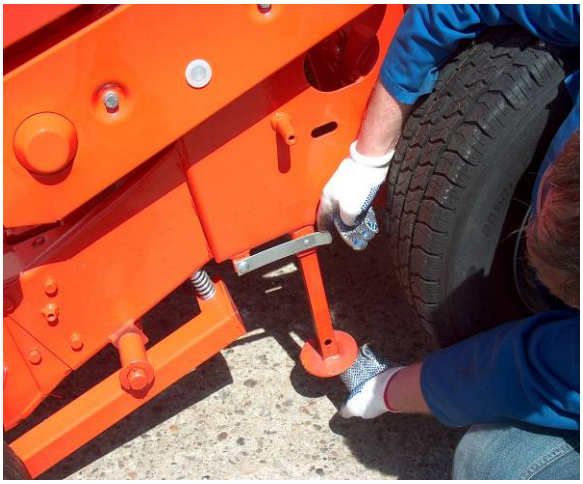
これによって最適な材料の流れが生じ、茎が散乱することもなく運転も快適です。図 30 を参照

フィードバーは低く設置するか、または道路保護を
下方に開く必要があります。図 3 を参照。

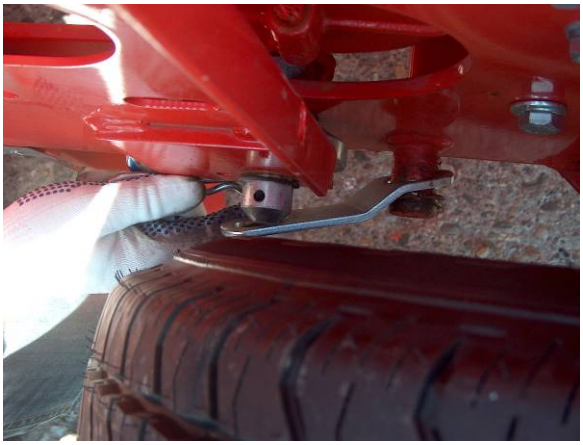
ピックアップの配置

ピックアップは耕作チョッパーに**金属探知機** を取り付けるだけです！ 牧草収穫では、金属物を引き込んでしまうリスクがかなり大きくなります。

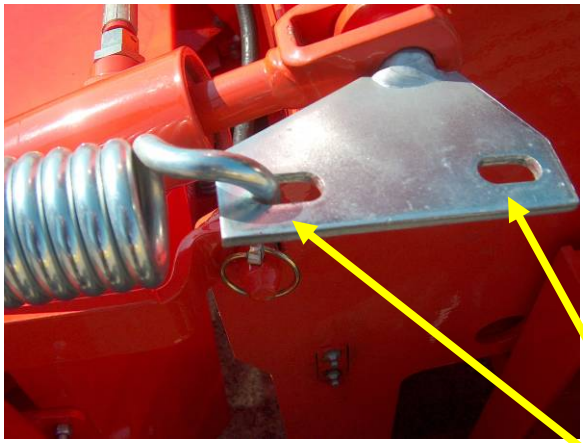
アグリゲートをランナーで取り込み、支持脚に負担がかからなくなるまで機械を引き上げます。



レバーを緩め、左右の支持脚をレバーがロックするまで押し上げます。



割りピンを外し、ホルダーを取り付けて固定します。



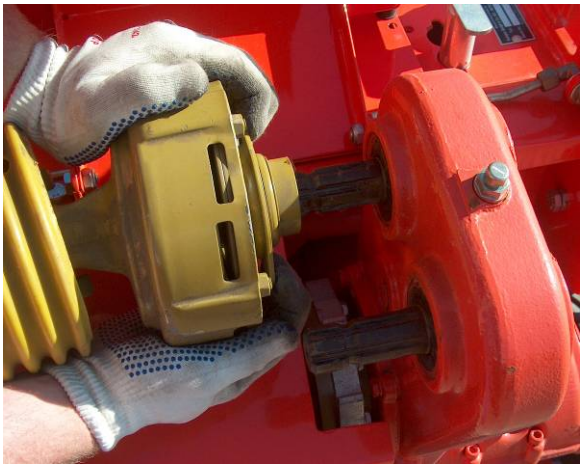
ピックアップがアグリゲートにしっかりとフィットするまで機械を下げます。
テンションスプリングとホルダーを取り付けます（トウモロコシアタッチメントには不適当）。

アタッチメント補強のシリンダーをボルトで固定します。

高いバイアス

低いバイアス

ユニバーサルジョイントをドライブのピックアップに押し込みます。

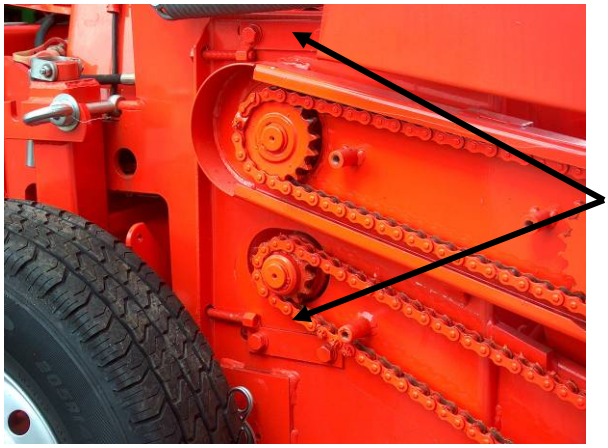


ドライブカルダンシャフトを取り付けます。
スリップクラッチを注意しながらトランスミッションに取り付けます。

重要！

最初の使用前にクラッチをメンテナンスしてください。その際、ボルトを回す必要があります。チョッパーを10秒間駆動させてください。パットをずらします。
それからボルトを最後まで緩めます。

ピックアップのチェーンは定期的にメンテナンスをする必要があります。
毎日のグリスアップとチェーンのテンションのコントロールは補助穴から行えます。チェーンにテンションを加える場合は、安全装置を取り外します。

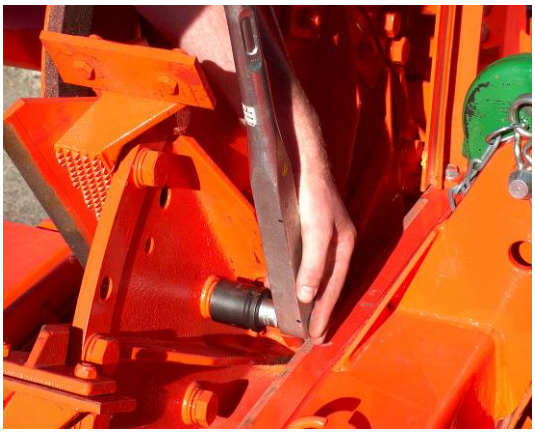


調整プレートのネジを緩め、スピンドルでチェーンのテンションを調節します。

テンションの調節の終了後はネジを締め、保護プレートを再び固定します。

牧草サイレージのための組み替え

牧草操作には、6本のナイフすべてをナイフホルダーと共に取り外すことが必須です。



それには、それぞれ3本のボルト M 20X 45 8.8 を外す必要があります。

すべてのナイフをナイフホルダーと共に取り外します。

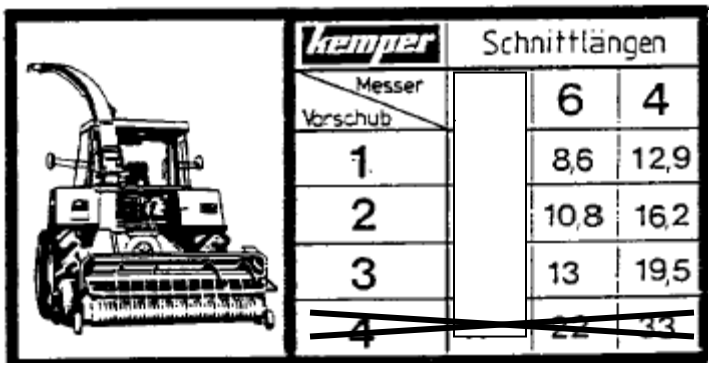
滑らかな磨り潰しプレートをチャンネル内に取り付ける必要があります。
「磨り潰しプレートの交換」を参照してください。

転移ドライブの組み替え

4.0 章を参照

牧草収穫前の特定チェックポイント

1. 6本以内のナイフのみで運転します。(可能な限り新品使用) 表 26を参照。
2. 残りすべてのナイフ、ナイフホルダーおよびシャベルを取り外します。
3. ナイフホイールのすべてのボルトをトルクレンチで締め付けます！
   ナイフホルダーとシャベル = M 20 = 360 Nm
   ナイフ固定ボルト = M 12 スペシャル = I 3 0 Nm
4. ナイフを研ぎ、ナイフホイールを調整します！
   カウンターナイフへのギャップ = 0.2～0.5 mm。図 22+23 を参照。
5. カウンターナイフを点検し、必要とあれば回転させるか交換します。
   両方を短くし、サイドカウンターナイフをエアギャップなしでまっすぐに取り付けます。
   (図 21を参照) すべてのボルトを締め付けます!
6. シャベルのすべてのエッジが強く丸みを帯びている場合は、シャベルを回して
   ください。損傷している場合はただちに交換してください！
3. チョッパーハウジングの両方の滑らかな磨耗プレートを点検します。場合によって
   交換します！



Kemper	Schnittlängen		
Vorschub \ Messer		6	4
1		8,6	12,9
2		10,8	16,2
3		13	19,5
~~4~~		~~22~~	~~33~~

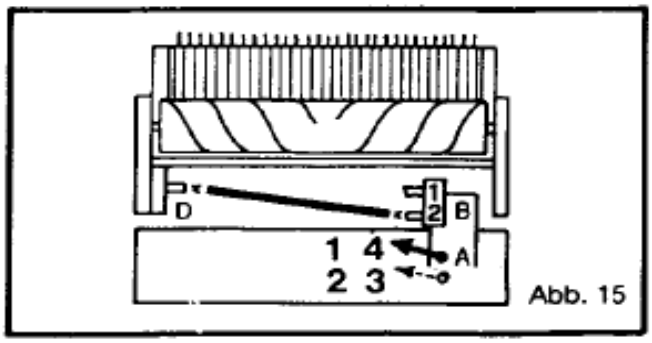


Abb. 15

ピックアップ – アタッチメント – 引き込み速度

ピックアップは高速で実行しないでください。それによって、磨耗をできるだけ防ぎます。
チョッピングブレード、バーおよびシャベルを均一に取り外すことにより、切断長さが広くなります。カルダンシャフトの接続は、**B2** から D です (ピックアップ-ドライブ)。
フィード 3 でチョッピングする場合は、カルダンシャフトの接続は B1 から D です。
運転速度と作物が適切であれば、カルダンシャフトを B1から**B2** に接続することにより、ピックアップとスクリューの回転数を再び減少することができます。

GPS を用いた収穫方法の指示

保存方法の重要性の高まりを考慮し、GPS は回転式収穫装置のためにアクセサリーとして開発され、特定の条件下で GPS 収穫方法が可能になります(冬大麦のホールクロップサイレージ、冬小麦、ソラマメ、アルファルファ。菜種など)。本来、Champion は粗茎作物(トウモロコシ)の収穫のためにのみ設計されています。次のさまざまな指示に考慮し、立っているドライ作物のような有利な条件の場合に良好な結果を引き出せます。設計原理と切断システムの設計による切断の高さは、ある程度の妥協を受け入れる必要があります。
横たわっているドライ作物は土壌の種類にもよりますが、なお収穫できます。砂質土壌に横たわっている湿った作物や植物などの極端な条件下では、進行方向の運転速度に関するいくつかの経験またはリフターの使用が必要になります。

運転速度 –切削速度 –収集ドラムの回転数

弊社の経験によると、GPS での収穫の際は迅速に移動する必要があります。ここでは、運転速度と収集ドラムの速度を一致させるような一般的なガイドラインしか与えられません。なぜなら作物も影響を与えるからです。
運転速度: 材料が適切に流れるために、多くの質量が必要とされます (短いトウモロコシにも同様)。
トラクターは時速10～12 kmで運転します！ 基本事項:
適切な切断処理を実現するために、薄茎作物の場合の切削速度はトウモロコシやヒマワリより高くする必要があります。収集ドラムの回転数が最小で 28～36 rpm の場合、GPSは弊社の経験では適切です。注意:
収集ドラムの可能な回転数の最大は 61です。

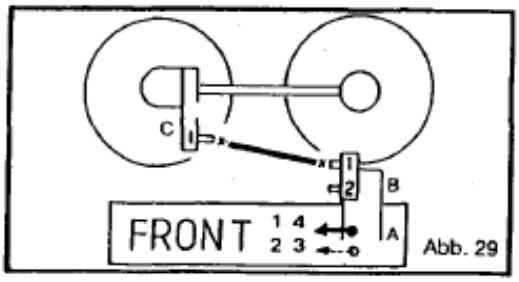
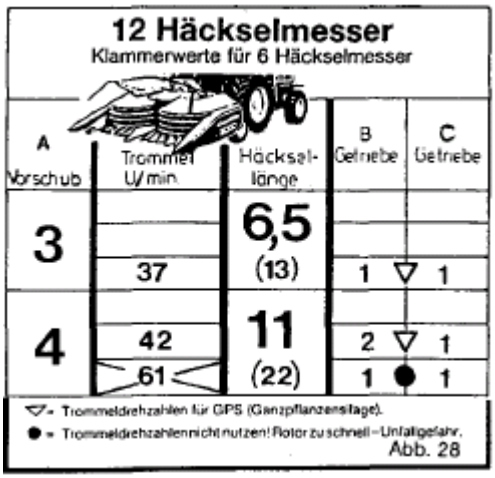


Abb. 29



12 Häckselmesser
Klammerwerte für 6 Häckselmesser

A Vorschub	Trommel U/min	Häcksel-länge	B Getriebe	C Getriebe
3	37	6,5 (13)	1 ▽	1
4	42	11 (22)	2 ▽	1
	61		1 ●	1

▽ = Trommeldrehzahlen für GPS (Ganzpflanzensilage).
● = Trommeldrehzahlen nicht nutzen! Rotor zu schnell – Unfallgefahr.
Abb. 28

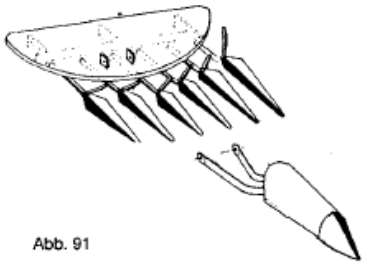


Abb. 91

説明書に記載されているように、事故の可能性のあるリスクで運転はしないでください。
このケースでは切削速度はかなり高くなります。

極端に横たわっている果物の場合は、リフターの使用が必要になることがあります。各収集ドラムの前、小さな先端部前にリフターを取り付けます。後付キット 番号 57517

GPS方式用アクセサリー

B 押しつぶしプレート: 切り刻まれた作物のさらなる過程に成果を与えます。注文番号: 58605
C リフター: 図 91を参照。注文番号:57517 18

サイロ油菜の収穫

サイロ油菜の収穫は、最小の高さ、収集ドラムの低い回転数および低いエンジン回転数などの特定の条件下で可能です。ここでは基本的に早く運転する必要があります。それによって材料の流れが良くなります。

キビの収穫

基本的には油菜とキビの収穫は同じです。ここでは、あまり知られていない作物を収穫するのと同じように、ある程度の経験が必要になります。

最適なチョッピングと低所要動力のために、ナイフは定期的に研磨してください。
研磨は日に数回行ってください。

研磨装置の操作

機械を起動します。PTOを約580 1/minにします。**アタッチメントはスイッチオフ！**
保護カバーのロックを解除します。
エンドカバーをロックし、意図しない落下に対して安全を確保してください。

研磨装置のロックナットを緩めます。

ハンドルを研磨装置にフィットするまでナイフホイールの方向に回してください。
また、研磨デスクはナイフホイールに対して4分の１回転で回してください。

重要！

研磨の際は砥石が共に回転する必要があります！ 回転数を調整してください！ 増加するナイフホイールの回転数は研磨デスクを硬化させ、低下する回転数を和らげます！

研磨後:
- 研磨デスクを元に戻す
- 研磨装置をカウンターする
- 保護カバーをロックする

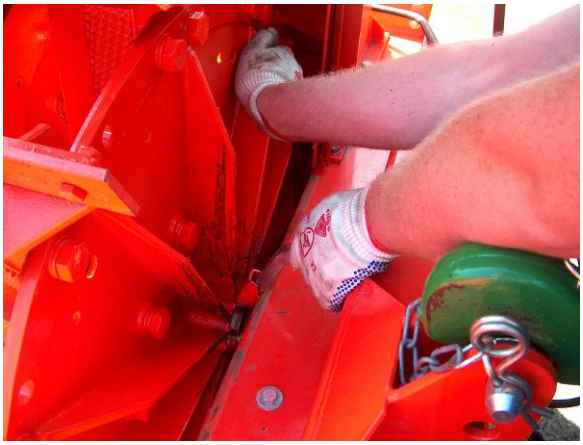
ナイフホイールの調整！

研磨後にカウンターナイフのナイフホイールを新たに調節してください。
それには、ナイフホイールのハウジングを開きます。

座から回転ロック（ロックスプリング）を抜き取ります。それにより、ナットが解放されます。

付属の16 mm の取付けロッドをナットの四角にロックします。

注意: 締付けトルクに注意します!

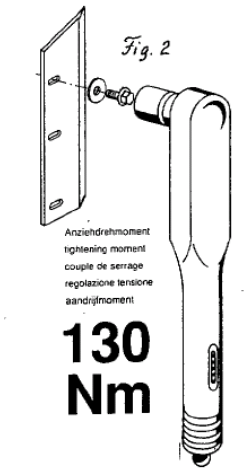


右手でナイフホイールをカウンターナイフにかかるまで時計回りに回します。

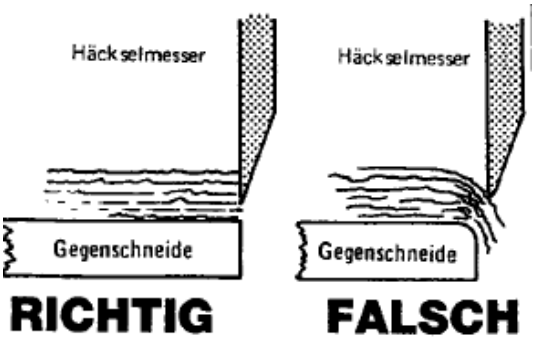
ナイフホイールを回して戻します。
ナットのスロットにロックスプリングを再びロックします。

調節後にはナイフホイールがカウンターナイフに接触しないようにしてください。
場合によっては再調整を行い、カウンターナイフを点検し、カウンターナイフのスロットをリリースします。

常にカウンターナイフとの間隔が狭くなるように、ナイフはスロットホールで調節します。



カウンターナイフの回転あるいは交換します！



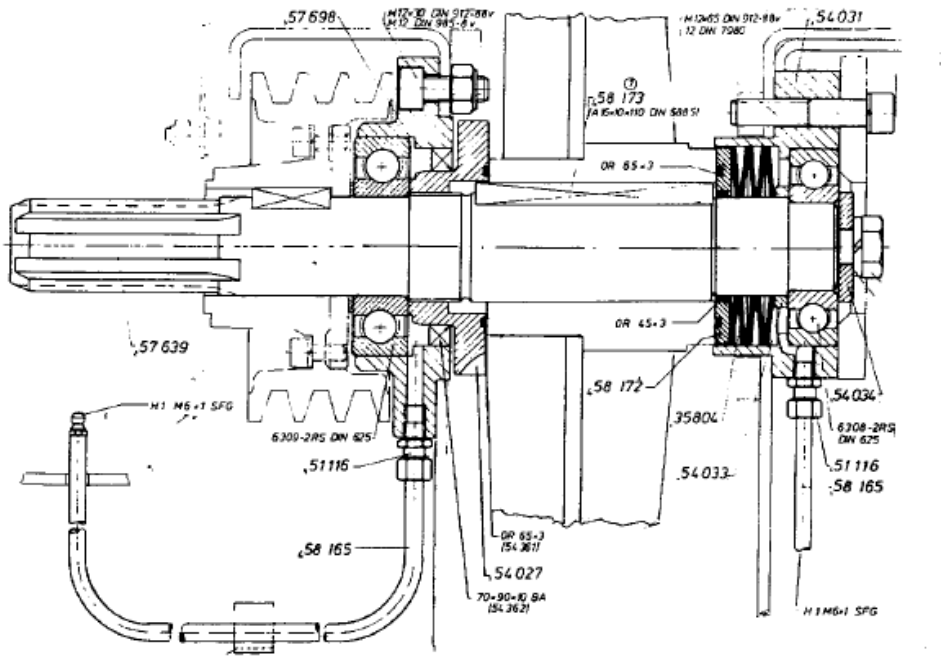
カウンターナイフの状態は定期的に点検します。「カウンターナイフの交換」を参照してください。

章「プレスチャンネル」を参照してください。

シャベル

切り刻まれた作物の最適な作業にはシャベルが必要です。4回まで回転させることができます。

Messerradlagerung



5.7 磨り潰しプレートの交換 C2200

切り刻まれた作物の高さに応じて磨り潰しプレートを調整する必要があります。

- 牧草収穫用のプレインプレート
- トウモロコシ用の穴あき磨り潰しプレート

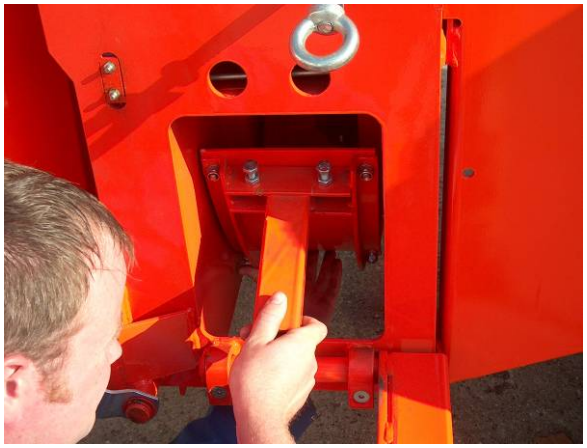
- 穴あき磨り潰しプレートの使用により、トウモロコシ粒をより良く粉末化します。トラクターより高い所要電力が必要とされます。

Champion 耕作チョッパーは、**下部**と**サイド**磨り潰しプレートが装備されています。両方とも必要に応じて交換することができます。

サイド磨り潰しプレートの取り外し:

チョッピングユニットを上げます。ネジを緩め、支持ホイールが装備されている場合はそれを引っ込めます。

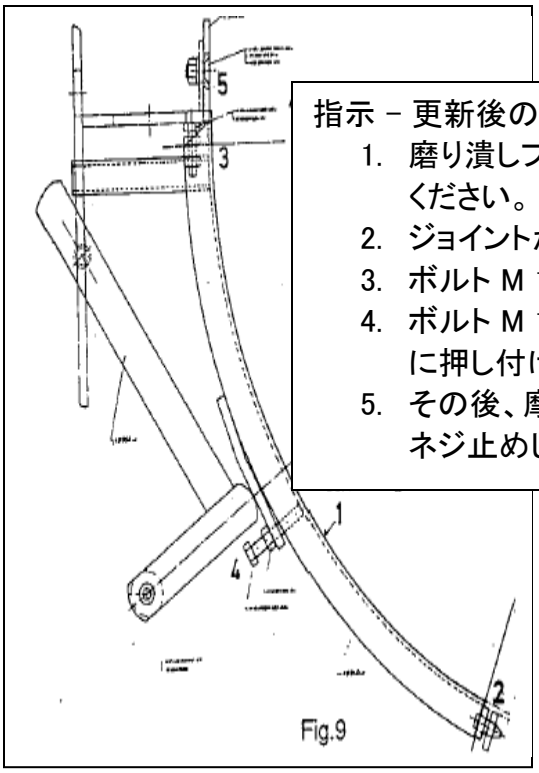
開く際は注意してください!
磨り潰しプレートを押さえます。さもないと落下します。



レバーを緩め、磨り潰しプレートを引き抜きます。

磨り潰しプレートを下方に取り出します。その際、支持ホイールと支持ブラケットをいくらか支えます。

センターリングピンはハウジングの穴に挿入します。



指示 – 更新後の磨り潰しプレート調整

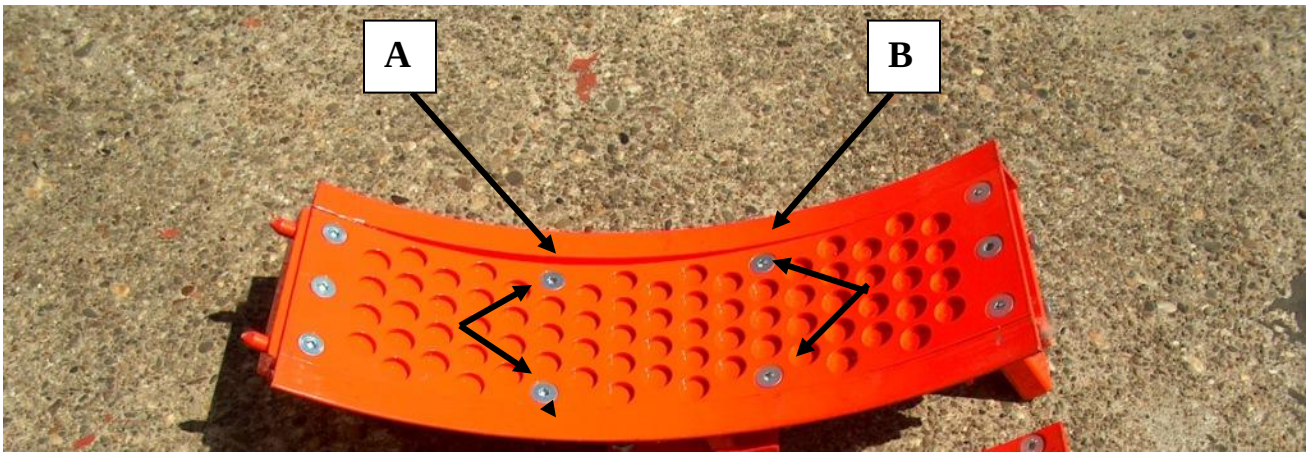
1. 磨り潰しプレートが全長にかかっていることを確認してください。
2. ジョイントが一緒になっていることを確認してください。
3. ボルト M 10X40 でジョイント 2 を調整します。
4. ボルト M 12X60 で磨り潰しプレートをシール面 1 に押し付けます。
5. その後、摩耗プレートを磨り潰しプレート上に配置し、ネジ止めします。

サイド磨り潰しプレートは、それぞれの穴の大きさに適合させることができます。

比率を A から B に変更することによって、磨り潰し強度が変更します。それによって、最適な収穫品質を調整することができます。

調整ボルト A は、工場側でバックラッシュが10 mm に調整してあります。

調整ボルト B は、工場側でバックラッシュが 3 mm に調整してあります。



ロックナットを緩め、ボルトを締めるか緩めてください。
調整後はネジを必ずロックしてください。

5.7 磨り潰しプレートの交換 C2200

（図 9 も参照）

両方のボルト12で磨り潰しプレートを調整する必要があります。

下部の磨り潰しプレートの交換

磨り潰しプレートを交換する場合は、耕作チョッパーを上げる必要があります。下部底板は10本のボルトで緩めることができます。

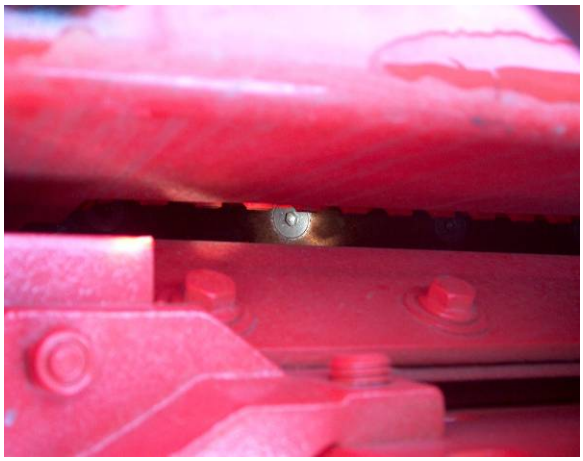
ボルト10を外します。

磨り潰しプレートを回す

磨り潰しプレートの耐用年数は、下部とサイド磨り潰しプレートを回すことによって延長することができます。

5.8　カウンターナイフとフラットローラーの点検と調整　C2200

カウンターナイフの点検



カウンターナイフの目視検査はナイフホイールのハウジングからできます。

カウンターナイフを新たに調節する場合、または交換する場合はプレスチャンネルを開く必要があります。更にフロントのボルトを外し、リアのボルトを緩めます（両側）。

4本のボルト M12X 30。プレスチャンネルの下部の左右のボルトを2本づつ外します。

5.8　カウンターナイフとフラットローラーの点検と調整　C2200

現在、レバーでアタッチメントを上げることができます。

カルダンシャフトは互いに引き合い、自動的に離れます。下げる場合に、ロールチャンネルのプロファイルチューブをまとめる必要があります。

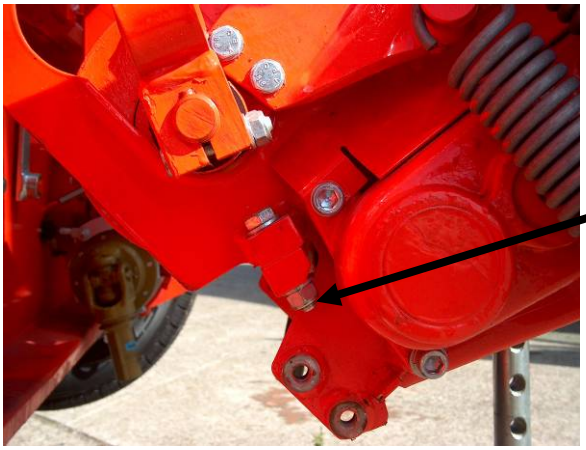
カウンターナイフで作業を始める前に、上げたアタッチメントを支えます。

5.8　カウンターナイフとフラットローラーの点検と調整　C2200

カウンターナイフを調整する

カウンターナイフは調節、回転あるいは交換することができます。

フラットローラーのスクレーパの調節

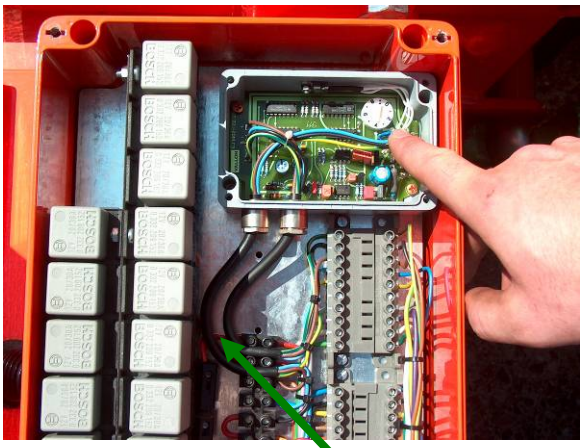


フラットローラーを調節にはボルト12を緩めます。スクレーパをできる限りローラーに近づけ、調節します。最大ギャップは 0.5mm です。

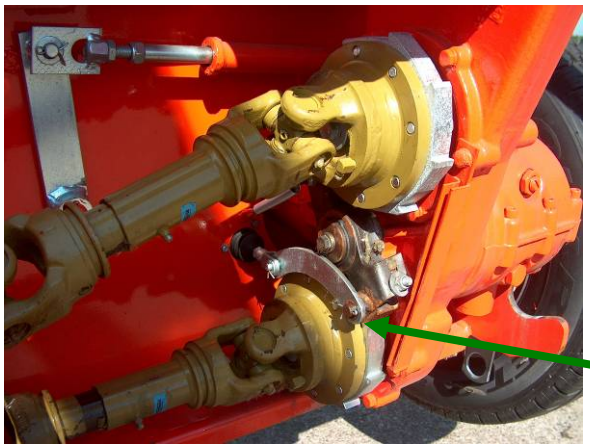
金属探知機は外部の特徴で見分けられます：

- アグリゲートのコントロールボックス
- ドライブとプレスチャンネル間の噛合いクラッチ

金属探知機の応答特性は調整できます。それには、コントロールボックスのポテンショメータを回します。
1 = 鈍感
9 = 敏感



コントロールボックス内に8 A ヒューズが設置されています。ヒューズボックスは押し込んでから回して開きます。



それぞれ使用する前には金属探知機の機能をチェックしてください。

1. オン、オフ
2. 引き込みは「フォワード」
3. ゴム引きされたローラーが金属物体に触れないように気をつけてください。
4. 噛合いクラッチが正常にブロックしている：
   検出器は正常です
5. 噛合いクラッチがブロックしない：
   専門ワークショップに問い合わせてください

自動電流潮流遮断のドライブ

両方のフロント収集ドラムおよび圧縮ローラーとフィードローラーのドライブは、メインドライブシャフト ジョイント、ナイフホイールおよびトランスミッションによって駆動します。収集チャンネルでの障害や異物または閉塞による障害がある場合は、自動電流潮流遮断システムによって引き込みをすばやく切断（レバースイッチ 10 位置「自動 0」）または反転することができます。
レバースイッチ**10** でリフィティングスピンドルドライブ 27 にパルスを与えられます。
カム 80 によって3溝Vベルトが緩められ、電流潮流は遮断されます。
リフィティングスピンドルドライブ 27 は再び稼動し、レバー 68 によってドライブ 30 が負荷なしで「O 位置」に切り替わります。

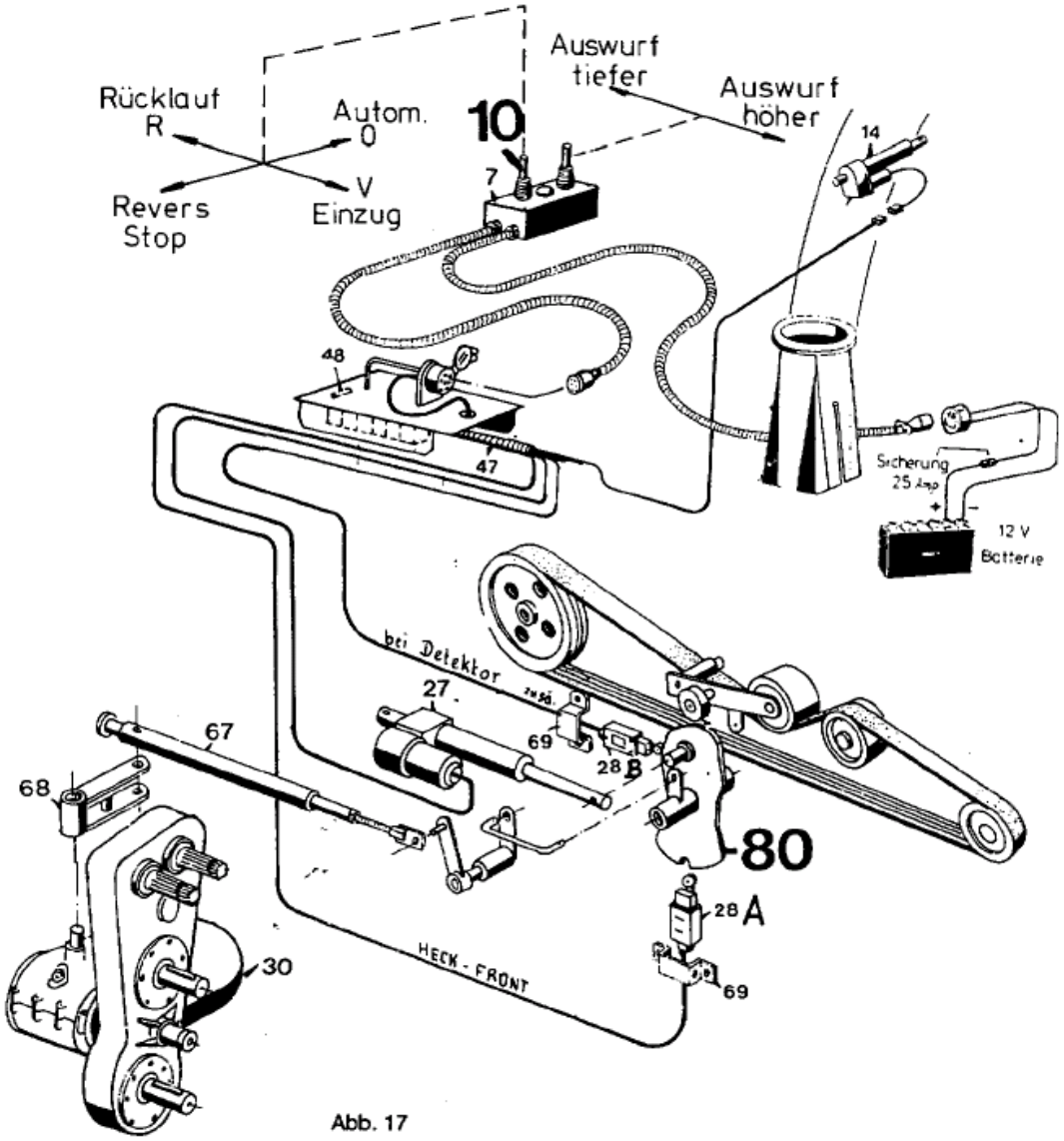


Abb. 17

実行可能な組立ての調整指示

検査または新規組立ての際は、次の指示に注意してください：

1. リフティングスピンドルドライブ 1 は、まずカムに接続してから示されている 5° の位置（O 位置）にセットします。この場合、ローラー 3 はカムの中央に位置します。

2. ポジションスイッチ 28 A は示された中央位置になります。

3. シフトレバー 5 も同様に中央位置に配置されます。

4. この基本設定後に、接続 6 と 7 間の寸法は X になります。

5. この寸法 X は、スプリングシリンダー 8 のナット 9 で調整することができます。それからスプリングシリンダー 8 をシフトレバーに接続します。調整ボルト 10 + 11 は、シフトレバー位置「フォワード」と「バックワード」のリミット停止としての役割を果たします。調整指示：スプリングシリンダーをシフトレバーで最終位置に持ってきます。ボルトを ½ で回し、カウンターします。

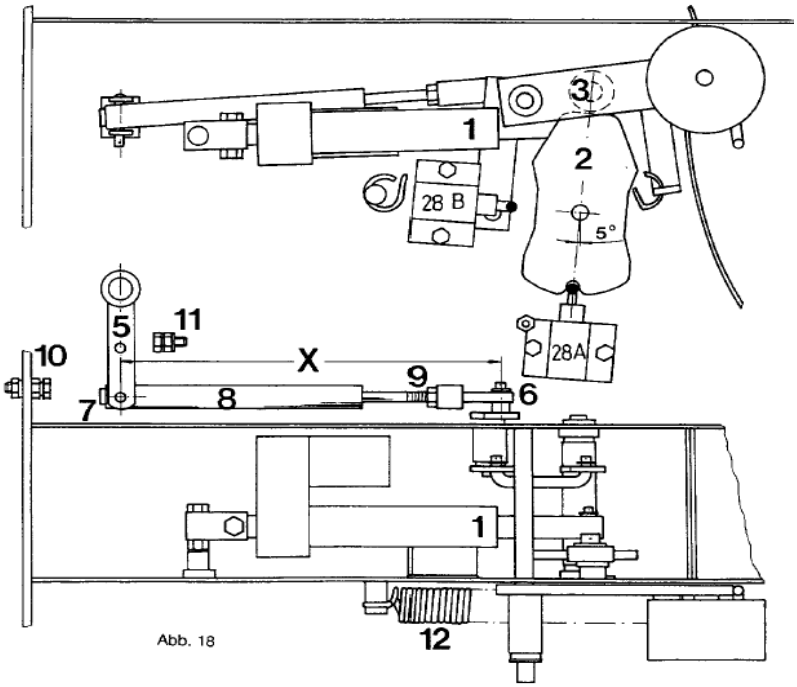


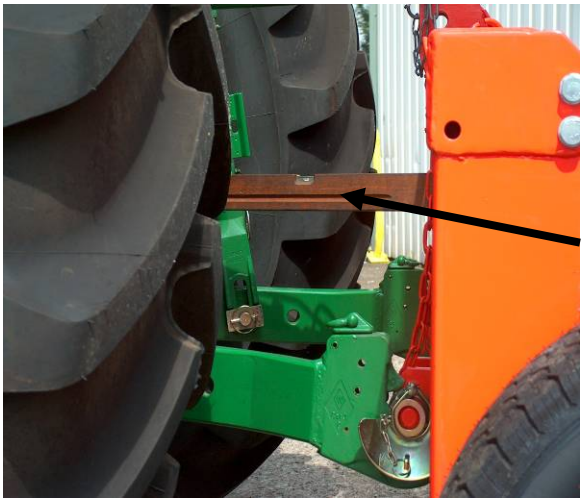
Abb. 18

6. V ベルトテンション機能にはテンションスプリング 12 が特に重要です。従って、定期的に検査する必要があります。

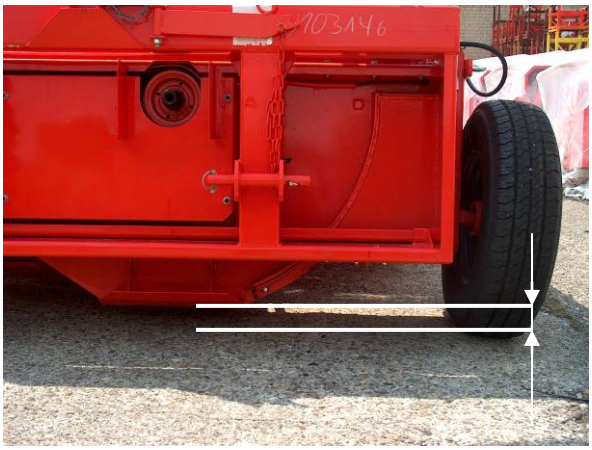
7. ポジションスイッチ 28 A は、リフティングスピンドルドライブがどの位置にあるかを示します：フォワード、O 位置またはバックワード。調整は、ローラー 3 がフォワードまたはバックワード位置にそれぞれ均一にカム 2 から離れて配置するようにしてください。

8. リミットスイッチ 28 B は、リフティングスピンドルドライブ 1 が最終位置に達する直前に電源を遮断します。（検出器装備のバージョンの場合のみ）

耕作チョッパーを設定する



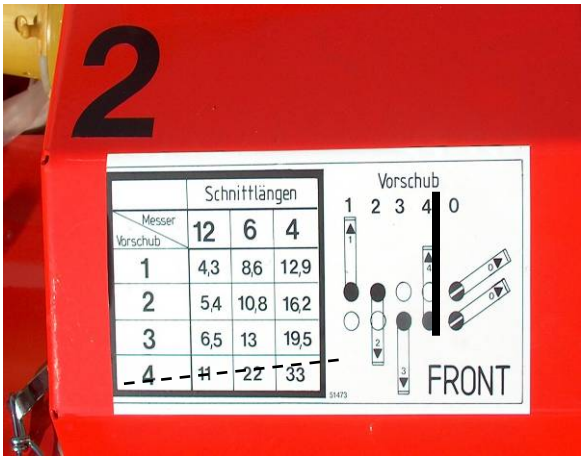
可能であれば、シャフトがバランスを保ちながら作動するように取り付けます。耕作チョッパーが地面に対して垂直になるように、上部リンクを調整します(バランスをとる)。



チョッパーのバランスを維持するために、支持ホイールのサポートを得て、ハウジングと接地との間のクリアランスを 5 cm に調整してください。
調整は水平な場所で行ってください。
耕作チョッパーを再び作業高さに戻し、トラクター油圧でセットします。

チョッピングユニットは基本設定後には調整されません。アタッチメントはシリンダーによって持ち上げられます。

1000 回転 PTO をオンにしています。
適切なチョッピングの連続回転数は
1000 rpmです。

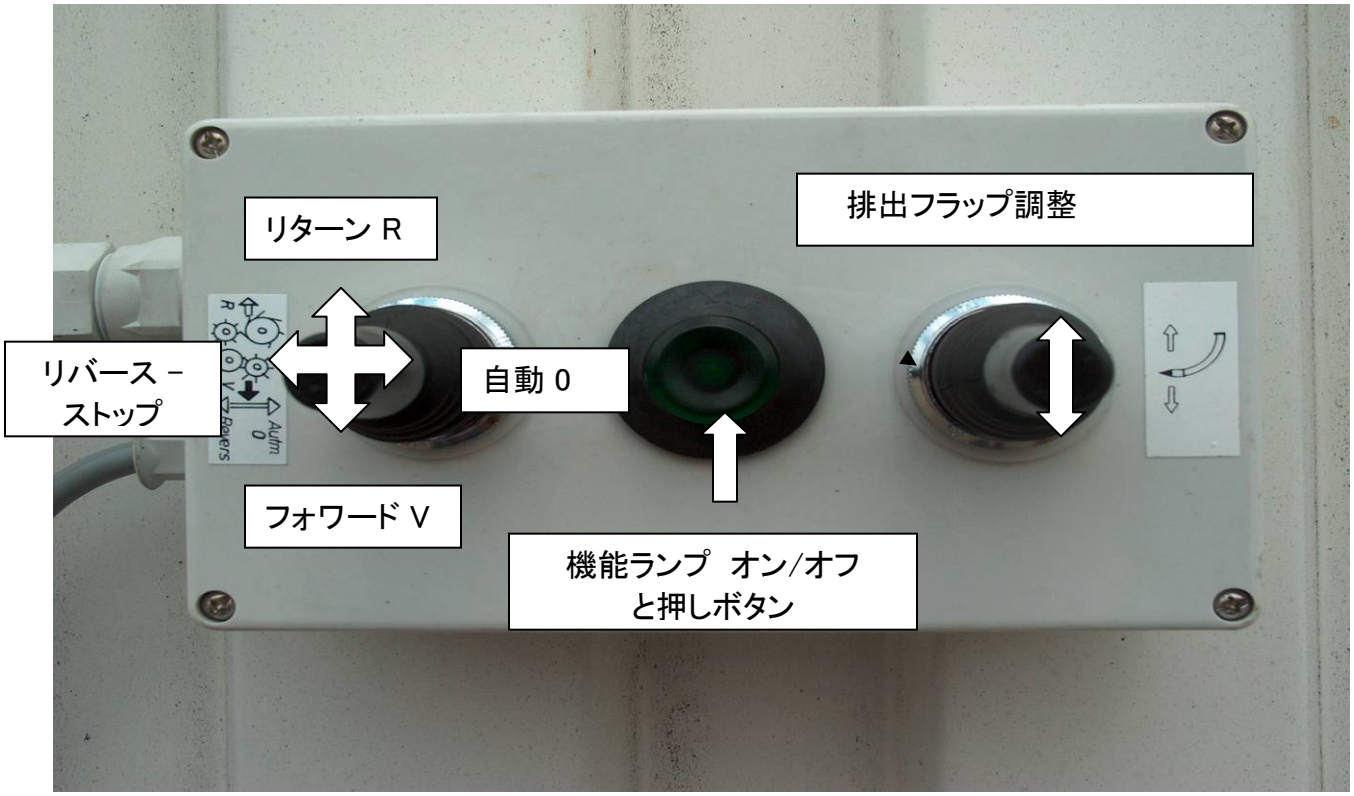


摩耗および安全上の理由のため、
4 速に切り替えないでください。

引き込みボディの切り替え

チョッパーの操作前に、トラクターのアイドリング回転数で引き込みを開始することを推奨します。
回転ブレードの回転数が高く、フライホイールマスが比較的大きいため、フル回転で引き込みを開始することを可能な限り避けてください。
フル回転でのスイッチの切り替え（閉塞による反転）は、回転ブレードがフリーホイールにより回転数を維持しているときのみ可能です。

5.10 耕作チョッパーで作業する　C2200



「リバース－ストップ」= 金属探知機との接続がアクティブな場合のみ。スピア機能をアクティブ化します。

「リターン」　= ドライブがリターンに切り替わる

「フォワード」　= ドライブがフォワードに切り替わる

自動 0　= ドライブがニュートラルに切り替わる

アクセサリーキットの納入範囲　C2200

オーダーに応じたアクセサリーの出荷

別個のパッケージに制御盤、サーボモーター、ボルト、別の電流供給、ナイフホイール調整レバー、取扱説明書および部品リストが含まれています。

アクセサリーキット

磨り潰しプレート

カルダンシャフト